



平成23年度
「体験型海外教育実地研究」
参加者による開発教材集

平成 24 年 2 月

広島大学大学院教育学研究科
広島大学グローバル・パートナーシップ・スクール・プロジェクト研究センター

目 次

1. 第4学年 音楽科 Listening to the Japanese tune, and applying the title to it.
教育学研究科科学習科学専攻カリキュラム開発専修 清水 典子 …… 1
2. 第4学年 異文化交流 Let's enjoy FUROSHIKI!!
教育学研究科科学習科学専攻カリキュラム開発専修 古石 卓也 …… 7
3. 第5学年 社会科 What image is your country?
教育学研究科科学文化教育学専攻社会認識教育学専修 庄本 恵子 …… 13
4. 第5学年 社会科 Globalization and Glocalization through MacDonald
教育学研究科科学文化教育学専攻社会認識教育学専修 松原 直哉 …… 19
5. 第6学年 異文化理解 Let's make original Karuta and play it!
教育学研究科科学習科学専攻学習開発基礎専修 福山 理 …… 25
6. 第7学年 社会科 Sustainable Transportation Network for a City (ESD)
教育学研究科科学文化教育学専攻社会認識教育学専修 中村 光則 …… 31

※教科等名は、参加者（授業者）側から付したものであり、授業を実施した当該校にとっては教育課程外の投げ入れ授業として位置づけられるものである（一部を除く）。

第4学年 音楽科

Listening to the Japanese tune, and applying the title to it.

教育学研究科 学習科学専攻 カリキュラム開発専修 清水 典子

1 はじめに

昨年度、体験型海外実地研究の授業に参加したことは私にとって素晴らしい体験であった。アメリカでいろいろなものを実際に見聞きし感じたことだけではなく、「やってみる」の大切さを痛感した。授業を計画していく中で、日本の良さや問題点にも改めて気づくことができた。しかし肝心の授業については学習内容や授業構成の不十分さや自分の英語力不足から、悔いの残るものになった。今年度、多くの方の協力と支援によってもう一度このプロジェクトに参加できることになった時、私は「アメリカの子どもたちの目を見てコミュニケーションをとること。」「子どもたちの心に何かが残る授業をしていくこと。」を最大の目標にした。

同じ場所に行くからこそ計画的に学び、昨年よりも思い切っているいろいろなことに挑戦し、子どもだけでなく先生方とも話をし、アメリカの学校のことや授業のことなど、昨年十分質問できなかったことについても聞くことができるようにしたいという思いで本研修に参加した。

2 実地研究の日程と概要

月日	曜	交通等	訪問地・用務等	泊
5/25	水	18:00-19:00 C527	授業テーマの検討・交流	
6/30	木	13:30-14:30 C527	学習指導案の検討 (校務のため参加せず、指導案提出のみ行う。)	
7/9	土	13:00-16:30 K102	第6回学校間交流国際フォーラム参加及び、昨年度の体験を発表する。	
7/10	日	9:30-11:00 C527	授業研究ワークショップ、現地教員との指導案検討	
9/3	土	10:00 - C527	学習指導案の検討(提出) 渡航準備 書類の提出	
9/17	土	広島—成田 0745-0925 (NH-3112) 成田—ワシントン ダラス 1105-1040 (NH-2) ワシントン ダラス—ローリー 1235-1340 (NH-7144) 空港 →City Hotel & Bistro		アメリカ ノースカロライナ州 City Hotel & Bistro 203 W. Greenville Blvd, Greenville, NC 27834 TEL(877)271-2616 Greenville
9/18	日	(サンドラ先生による 送迎)	ミーティング、ホテルにて教材作り 各学校の先生方と事前打ち合わせ レセプションパーティ	Greenville 同上
9/19	月	City Hotel →エルムハ ースト小学校へ (Jimmy による送迎)	学校訪問 (Elmhurst 小学校見学) 副校長先生による学校についての説明 校内見学、授業見学 担任の先生と授業についての打ち合わせ 夕食時ECUの院生を紹介され質問を受ける	Greenville 同上
9/20	火	City Hotel →エルムハ ースト小学校へ ECU 大学訪問 (ECU の先生方による 送迎)	学校訪問 (Elmhurst 小学校) 授業実践 (清水：70分近く授業を行う。) 授業参観 (松原) 校内見学、授業見学 午後イーストカリフォルニア大学訪問 リソースセンターの見学 夕食はワトソン先生の家で、それぞれの学 校の先生方とリフレクションをする。	Greenville 同上

9/21	水	City Hotel →セントピーターズカトリックスクールへ (タクシー) St. Peter's Catholic School → ローリー (タクシー)	学校訪問 St. Peter's Catholic School. 校内見学, 授業見学 午後 ローリーへ移動 ノースカロライナ州議事堂と自然史博物館を見学する。	ノースカロライナ州 Sheraton Raleigh 421 S. Salisbury Street Raleigh NC 27601 TEL (919) 834-9900 Raleigh
9/22	木	徒歩で, エクスプロリスミドルスクールへ	学校訪問 * Exploris M.S. (6-8) 午後も, エクスプロリスへ行き, 総合的な学習の時間の授業を参観する。	Raleigh (同上)
9/23	金	ローリー—ワシントンダラス空港 1025-1130 (NH-7145) (空港からホテルまでタクシー)	ワシントンへ移動 アメリカ文化体験	Washington Plaza 10 Thomas Circle, N.W. Washington, DC 20005 202. 842. 1300 / 800. 424. 1140 Fax: 202. 371. 9602 Washington DC
9/24	土	徒歩,	アメリカ文化体験 Book Fair を開催していたので見学をする。 スミソニアン博物館 ニュージウム見学	Washington DC(同上)
9/25 9/26	日 月	ワシントンダラス—成田 1223-1515 (NH-1) 成田—広島 1630-1805 (NH-3111)		

※ 現職のため後の事前学習は欠席

3 実地研究授業

3.1 単元名 第4学年 音楽「Listening to the Japanese tune, and applying the title to it.
日本の曲を聞いて, その曲に題名をつけよう」

3.2 事前準備

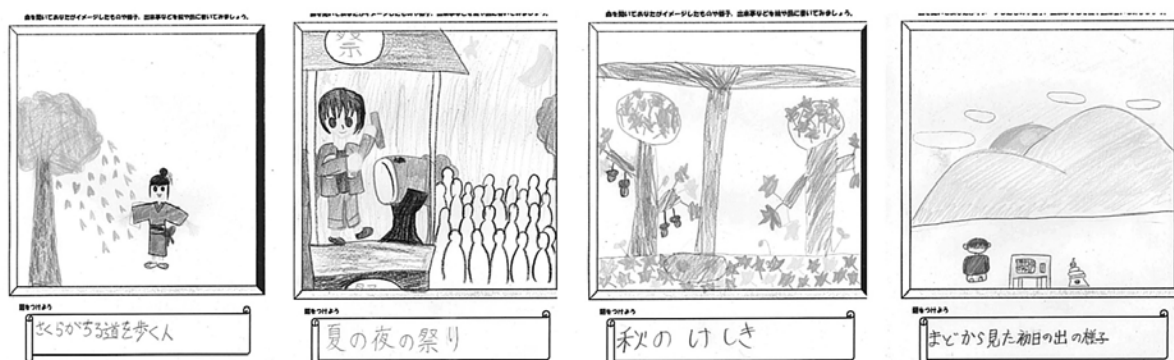
① 単元設定の理由

本授業のねらいは, ①日本の伝統的な音楽を歌ったり聞いたりして楽しむ。②「春の海」を聞いて, 曲に題をつけたり絵を描いたりすることができる。③日本の児童の描いた絵を見て, その特徴について考える。の3点である。日本では, 第5学年の音楽の授業で宮城道雄作曲の「春の海」を鑑賞曲として学習する。この曲をアメリカの児童が聞いた時, どのようなイメージを持つだろうかと思ったことが授業を考えたきっかけである。アメリカの児童に, 日本の伝統的な音楽を紹介し, イメージ画を描いてもらう。現職の小学校教諭であるため, 日本の小学校3年生と5年生にも同じような内容の授業を行い, イメージ画を描いてもらった。それをアメリカの児童に見せることで, 日米の小学生の考え方や感じ方の違いに気付き, この授業を通してお互いの国に興味を持つことができることを期待した。

② 準備したこと

9月7日(水)から9月16日(金)の期間で, 呉市立H小学校第3学年47名, 第5学年47名にほぼ同じ内容で日本語による授業を行った。日本では正月に耳にする機会が多くあるので, ほとんどの児童がこの曲を知っているだろうと思っていたら, 意外に初めて聞いたと答えた児童が全体の8割を占めた。授業では, 宮城道雄の写真や琴, 尺八のカラーコピーをしたもの, 瀬戸内海の春の海の風景の写真, ワークシートなどを準備した。

日本の児童が描いたものが下の図1～4である。



【図1 3年生女子の絵】 【図2 5年生女子の絵】 【図3 3年生男子の絵】 【図4 5年生男子の絵】

表1 「日本の児童が描いた絵の内容の分類」 *季節やそのほかの数が重複している場合もある。(数字は人数)

	春	夏	秋	冬	そのほか
第3学年	21	5	8	2	桜(27)もみじ(2)楽器の演奏(10)海(1)山(5)昔の様子(2)武士(1)戦い(1)結婚式(1)ひな祭り(1)
第5学年	27	4	12	6	桜(25)もみじ(5)楽器の演奏(4)海(2)山(1)昔の様子(2)武士(3)戦い(3)結婚式(1)お正月(2)歌舞伎(1)夏祭り(2)ひな祭り(1)

日本の児童は桜の絵を描く児童が非常に多く、3年生では楽器演奏を絵に描いた児童が2番目に多かった。季節は春を選んだ児童が多く、次いで秋をイメージした児童が多かった。5年生では、一枚の絵の中をいくつかに分け、季節の変化や物語の起承転結をイメージした児童も13名おり、曲の変化を意識して絵を描いたものと思われた。

3.3 学習指導案

Lesson Title : Listening to the Japanese tune, and applying the title to it.

Date: September 20th, 2011

Grade Level : 4th Subject : Music

Description : In this lesson, students listen to the Japanese music "Sea of Spring" with traditional Japanese instruments, and they draw a picture or think of the title of the tune.

And they look at the image picture draw by Japanese children ,and know how they feel about it.

Goal : Students learn Traditional Japanese music and understand what has been the theme of nature.

Objectives : As a result of this activity, it will be possible for children to

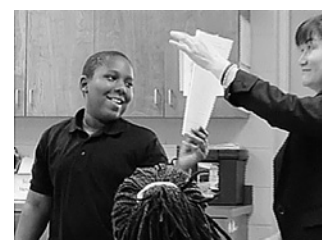
- 1 Enjoy singing and listening to Traditional Japanese songs.
- 2 Listen to the Japanese music "Sea of Spring" , it is possible to draw a picture or think of the title of the tune.
- 3 Look at the paintings of Japanese children, and think about its features.

Teaching process

Activity	Instruction of teacher	Materials
1 Warm up by clapping the rhythm.	1 The teacher get the children to relax by clapping the rhythm and speaking.	
2 Learn the Japanese song “Tuki(The moon)”,singing and hand gestures with the music.	2 Show the photograph of people enjoying “The moon”, and, give the child interest of that event in that season of Japan.	<ul style="list-style-type: none"> • Photograph of the moon
<p>3 Listen to the Japanese tune “Sea of Spring” , draw a picture or think of a title for the tune.</p> <p>The children draw the pictures, of their images of the tune, and give their explanation of the title they chose.</p> <p>4 Announce the picture or the title of the tune to the classmates.</p>	<p>3 Give a worksheet with the place where the picture can be drawn by the child, and where the explanation can be added.</p> <p>The teacher informs them of the true title, and introduces the scene of the tune. with the photograph.</p> <p>Shows photographs of Japanese traditional musical instruments of the same size as the Shakuhachi and sou.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Machine that throws music • Work-sheet • Marker pen • Photograph of The Bamboo flute and Japanese Harp • Photomap of the Inland Sea Picture • A map
<p>5 Look at paintings of Japanese children, and have the children give their impressions of the images.</p> <p>6 Have the children give their own feedback of the lesson.</p>	<p>6 Write a short message to the Japanese children.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Japanese children’s picture

3.4 授業の実際

- (1) 自己紹介の後、今日の学習であることを初めに説明した。
- (2) ウォーミングアップで児童に立ってもらい、いろいろなリズムを手や足で打つゲームをした。
- (3) 手遊び歌「月」を日本語で歌いながら紹介する。「TUKI」とは何かを当てるクイズをすると、児童は勢いよく手を挙げていた。その後1回歌って終了する予定であったが、児童の様子に合わせて急遽歌詞を電子黒板に書いたため、予定時間を超過した。
- (4) 「春の海」を聞いて、イメージ画を描くことを説明する。予定では1回曲を流して終了する予定であったが、児童が絵を描くのに時間がかかったため、初めの演奏部分をさらに3分間流した。
- (5) 自分のつけた題名と、絵を紹介してもらう。



進んで手を挙げた児童と、教師が依頼した児童とで、4名の児童の絵を紹介する。

- (6) 作曲者と曲の題名をクイズ形式で紹介する。尺八と琴の紹介もする。
- (7) 日本の児童の描いた絵を紹介する。児童からは「おおっ」というどよめきや「自分と一緒に」という声が聞こえた。
- (8) 最後に感想を書いてもらって終了した。予定よりも長時間（60分）の授業になった。



3.5 考察

成果としては、次のようなことがあげられる。長時間の授業であったにもかかわらず、児童が集中して授業に取り組み、日本の音楽に興味を持って活動することができたこと。担任のクリスウェル先生の補助もあり、学習の意図が児童全員に伝わり、全員がイメージ画を描き、題名をつけることができたこと、日本の児童の描いた絵に興味を持って鑑賞できたことである。

課題としては、3点あげられる。1点目は授業時間をかなり延長してしまったことである。授業内容が多かったことと、児童に合わせて予定を変更してしまったことで時間不足になった。2点目は、中心になる活動の前の活動に時間をかけすぎてしまったことである。そのため、「春の海」のイメージ画が「月」「夜」などに偏ってしまった可能性があることである。学習の前の「月」の曲のイメージや写真が「春の海」の曲のイメージ画に影響を与えたと思われる。3点目は、自分の語彙力不足から、児童に学習内容の説明が十分にできなかったことや、児童から出た意見を理解し

授業に生かしていくことができなかったことである。



【図5 エルムハースト小学校の4年生が書いた「春の海」のイメージ画】

エルムハースト小学校の児童が描いた絵は季節を感じるものはあまりなかった。描かれていた内容は、木(9)夜(6)月(7)音符(4)楽器の演奏(2)海(2)家(3)（カッコ内は人数、重複するものがある）などがあった。題に「Love」「Peaceful water fall」など、愛や平和を現す言葉をあてはめたり、「水」のイメージを持ったりした児童もいた。本当の題を知らせる時、「ある季節が題に入ります。」と告げて、児童にどの季節だと思うか聞いたところ、春(12名)夏(2名)秋(1名)冬(1名)であった。日本の児童も、アメリカの児童もこの曲からのんびりした「春」のイメージを持つ児童が多いと分かった。

4 体験型教育実地研究における自己変容

4.1 教育観の変容

英語での指導案作りを通して「授業」や「指導案」の在り方を改めて考え直すようになった。目標を明確に示し、内容を精選すること。単純で分かりやすい指導案を作ること。教材は視覚的に訴え厳選すること。言葉の伝わらないアメリカでの授業であるからこそ、日本よりもそれらがより必要とされる。1度目の経験を踏まえて、これらのことを意識して指導計画を立てたつもりであったが、時間を超過してしまい悔いの残る結果になってしまった。これは普段の自分の授業や指導案に欠けている点であることを痛感した。

もう一つは、子どもたちの成長を見守り育む多くの教育者が世界中にいるということを実感するようになったことである。今回の研修では、前回よりも多くの先生方と話すことができた。日本での学校間交流国際フォーラム、指導案検討会などを通して先生方の教育に対する熱い思いに触れることができた。渡米してからは、ウォーレン先生を初め、エルムハースト小学校の先生方、ワトソン先生、ジル先生、セントピーターズスクール、エクスプロリスの先生方…。本当に多くの先生方と話す機会をいただけた。昨年は気付かなかった多くの「教育に関わる人々」を身近に感じ、そのチャレンジ精神に触れ、勇気をもらおうと同時に学校評価や教員の忙しさなど、日本と同じような問題もあることを知ることができた。国によって異なる問題もあると思われるが、「子どもの成長」を願う「仲間」がいることに心強さを感じている。

4.2 自分自身についての変容

1 度目の体験型教育実地研究を終えた後、「もう一度授業をしたい。」という強い思いが自分の中に残っていた。それを目標に様々なことを乗り越えて行けたように思っている。「夢」「目標」は年齢を問わず、大切であることを体験することができた。次の夢に向かって挑戦し、努力していきたい。

今回特に、総合的な学習の時間を専攻している私にとって、Exploris 中学校の総合学習を参観できたことやその授業方法を垣間見られたことは重要な出来事であった。総合的な学習の時間の持つ可能性を感じるとともに、日本で自分がしなければならないことは何かを考えている。

2 度目の体験型教育実地研究でさらに、自分自身の教師としての資質と能力とこれからの課題を見つめなおすことができたと思っている。

4.3 グローバルマインドに関する変容

学校間交流国際フォーラムで、ワトソン先生が、「私たちはこの空の下でつながっています。」と言われたことが印象的だった。これまで、私は自分が「日本」の教師であり、「日本の」子どもたちを指導しているという考えを持っていた。しかし、そうではなく「世界の中の一人の教師であり、世界の中の一人の子どもを育てている」のではないかと考えるようになった。「国際理解教育」の目標の一つに異なる価値観や文化を受け入れ、尊重する心を育てることが挙げられているが、「自分のこととして考えることができる」ことや「共に学ぼうとする心を育てる」ためには、その人たちを身近に感じ、知りたいと思う意欲を育てること、そのための視野を広げる機会を設けることが大切なのではないかと考えている。



5 おわりに

帰国後、勤務先の児童は私の話をとても楽しみに待っていてくれた。アメリカの児童の描いた「春の海」のイメージ画を見て、「月の色が黄色じゃない!」「そうか、月って白かったり赤かったりするんだ。」「ヤシの実や木の中に顔がある。」「地面の色が緑色なのが多い。日本では土の色なのに。」など、興奮しながらいろいろなことに気づいてくれた。「自分の知っている世界や思っていたことが当たり前ではないことがある。」ということ子どもたちも少し感じてくれたのではないかと思う。

GPSC 関係者の皆様を初め、多くの方々のおかげで2度にわたり貴重な体験をさせていただくことができました。心から感謝しています。ありがとうございました。